

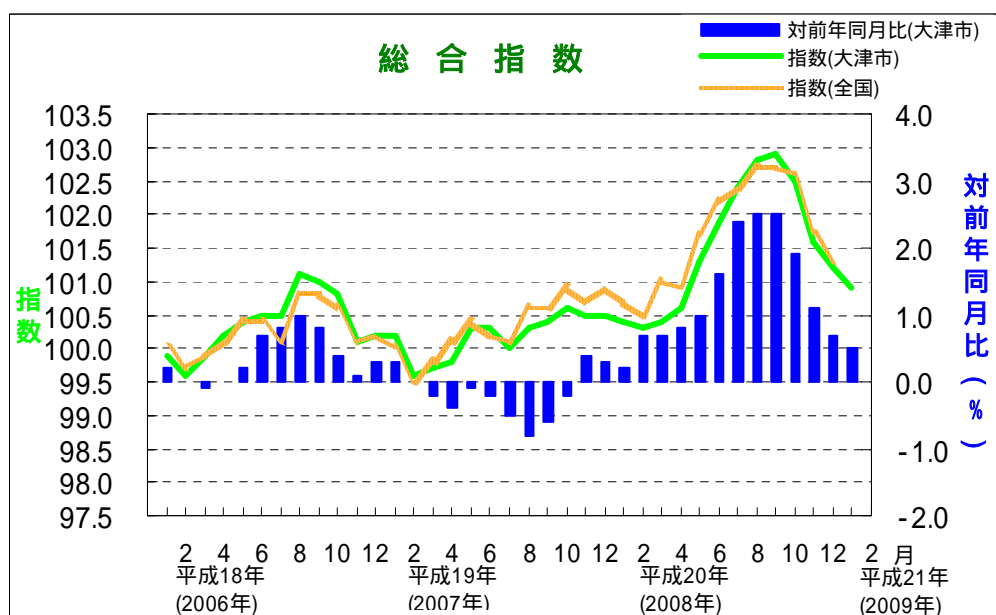
平成17年基準 **消費者物価指数（大津市）**  
平成21年（2009年）1月分

（平成21年2月27日公表）

**1. 平成21年1月分消費者物価指数（大津市）概況**

	指 数	前月比(%)	前年同月比(%)	概 況
総合指数	100.9	-0.3	0.5	前月比で4か月連続の下落。 前年同月比で15か月連続の上昇、 上昇幅が前月(0.7%上昇)よりさらに縮小。
生鮮食品を除く 総合指数	100.2	-0.4	0.1	前月比で5か月連続の下落。 前年同月比で15か月連続の上昇、 上昇幅が前月(0.3%上昇)よりさらに縮小。
食料(酒類を除く) 及びエネルギーを 除く総合指数	98.7	-0.6	-0.1	前月比で3年ぶりの大きな下落幅。 前年同月比でも下落。

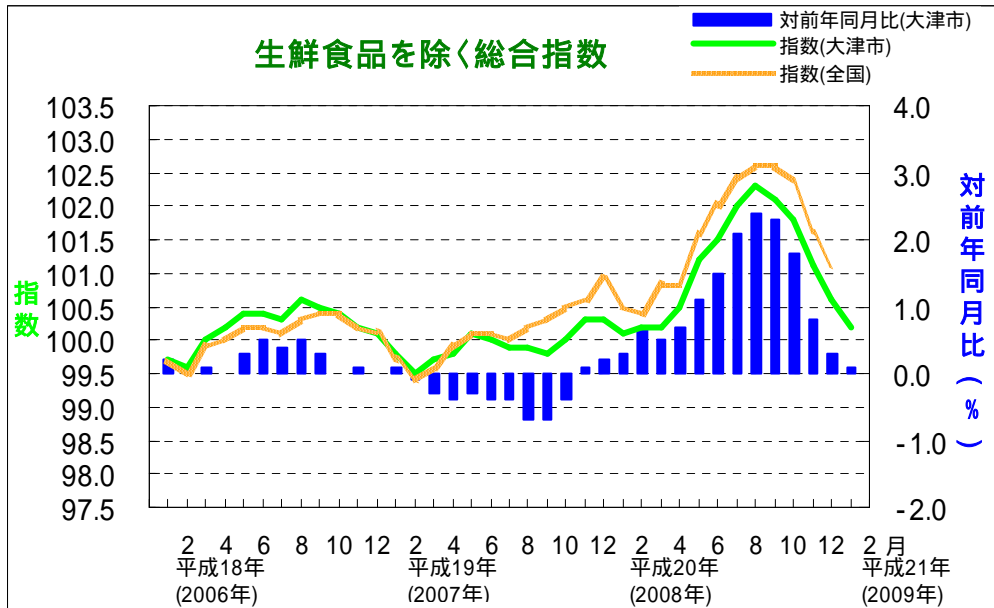
**2. 総合指数と対前年同月比の推移**



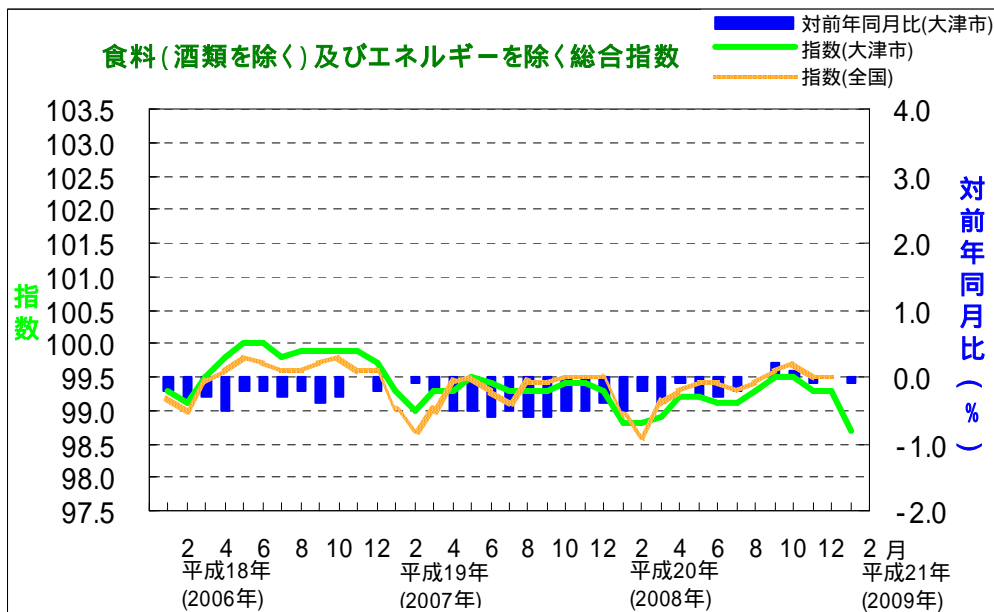
平成21年1月分公表から、総務省統計局の公表に準じ、「食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数」を概況の中でも掲載します。

総務省統計局消費者物価指数（全国） <http://www.stat.go.jp/data/cpi/index.htm>

### 3. 生鮮食品を除く総合指数と対前年同月比の推移



### 4. 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数と対前年同月比の推移



「食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数」 = 「総合」 - 「食料」 + 「酒類」 - 「エネルギー」

「エネルギー」...電気代、都市ガス代、プロパンガス、灯油、ガソリン

区 分	指 数	対前月		対前年同月	
		上昇率(%)	寄与度(*)	上昇率(%)	寄与度(*)
食 料	105.9	0.5	0.13	4.7	1.21
住 居	100.5	0.1	0.02	0.4	0.09
光熱・水道	107.1	1.9	0.13	3.9	0.26
家具・家事用品	98.3	0.5	0.02	2.0	0.06
被服および履物	94.0	-8.5	-0.37	-2.6	-0.11
保健医療	99.2	0.2	0.01	-0.1	0.00
交通・通信	97.1	-0.9	-0.13	-6.0	-0.90
教 育	103.5	0.0	0.00	1.3	0.06
教養娯楽	93.7	-0.5	-0.05	-1.4	-0.13
諸 雑 費	102.1	0.3	0.02	0.2	0.01

\* 寄与度：総合指数の上昇に対して各費目がどれだけ影響したかを示します。

## 6. 前月との比較

総合指数は100.9で、前月と比べると、洋服が14.2%、自動車等関係費が1.6%下落したことなどにより0.3%下落しました。最近の動きとして、平成20年2月から9月までの7か月間で2.6%上昇し、10月に8か月ぶりに下落に転じて以降、4か月連続の下落となっています。

生鮮食品を除く総合指数は100.2で、前月と比べると0.4%下落しており、前月比で5か月連続の下落となりました。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は98.7で、前月と比べると0.6%下落しており、これは平成18年1月以来3年ぶりの大きな下落幅となっています。

### 上昇した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

電気代[光熱・水道]	(+)	3.5%
教養娯楽用品[教養娯楽]	(+)	2.8%
生鮮果物[食料]	(+)	6.1%
ガス代[光熱・水道]	(+)	3.0%
生鮮野菜[食料]	(+)	2.9%

### 下落した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

洋服[被服および履物]	(-)	14.2%
自動車等関係費[交通・通信]	(-)	1.6%
シャツ・セーター類[被服および履物]	(-)	11.1%
教養娯楽サービス[教養娯楽]	(-)	1.7%

注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[ ]内は、10大費目名です。

注) 生鮮食品(生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物)については、小分類指数です。

## 7. 前年同月との比較

総合指数は、前年同月と比べると0.5%上昇しており、前月(0.7%上昇)より上昇幅がさらに縮小しています。上昇幅は10月に9か月ぶりに縮小して以降、縮小が続いています。上昇した中分類指数の主な項目をみると、生鮮野菜(16.9%上昇)、ガス代(11.9%上昇)、穀類(9.3%上昇)などの寄与度が高くなっており、上昇率では、10大費目の[食料][光熱・水道]が高くなっています。

生鮮食品を除く総合指数は、前年同月と比べると0.1%上昇しており、前月(0.3%上昇)よりさらに上昇幅が縮小しています。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は、前年同月と比べると0.1%下落していません。

### 上昇した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

生鮮野菜[食料]	(+)	16.9%
ガス代[光熱・水道]	(+)	11.9%
穀類[食料]	(+)	9.3%
電気代[光熱・水道]	(+)	5.6%
生鮮魚介[食料]	(+)	9.8%
設備修繕・維持[住居]	(+)	3.7%
調理食品[食料]	(+)	4.7%
乳卵類[食料]	(+)	11.9%
外食[食料]	(+)	2.1%
教養娯楽用品[教養娯楽]	(+)	4.2%
肉類[食料]	(+)	3.9%
家庭用耐久財[家具・家事用品]	(+)	6.1%
油脂・調味料[食料]	(+)	5.9%

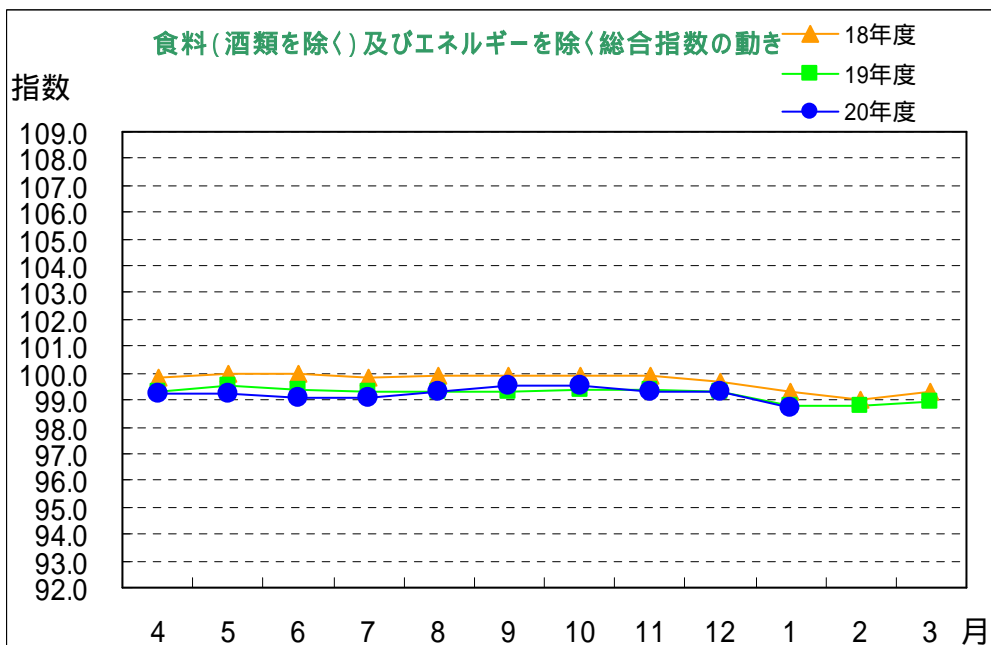
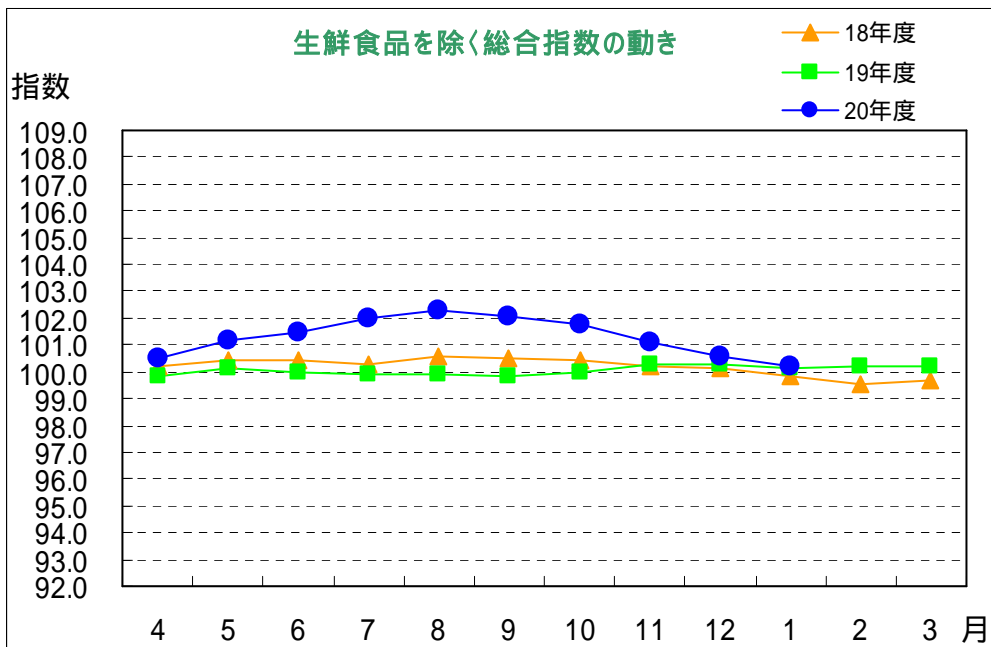
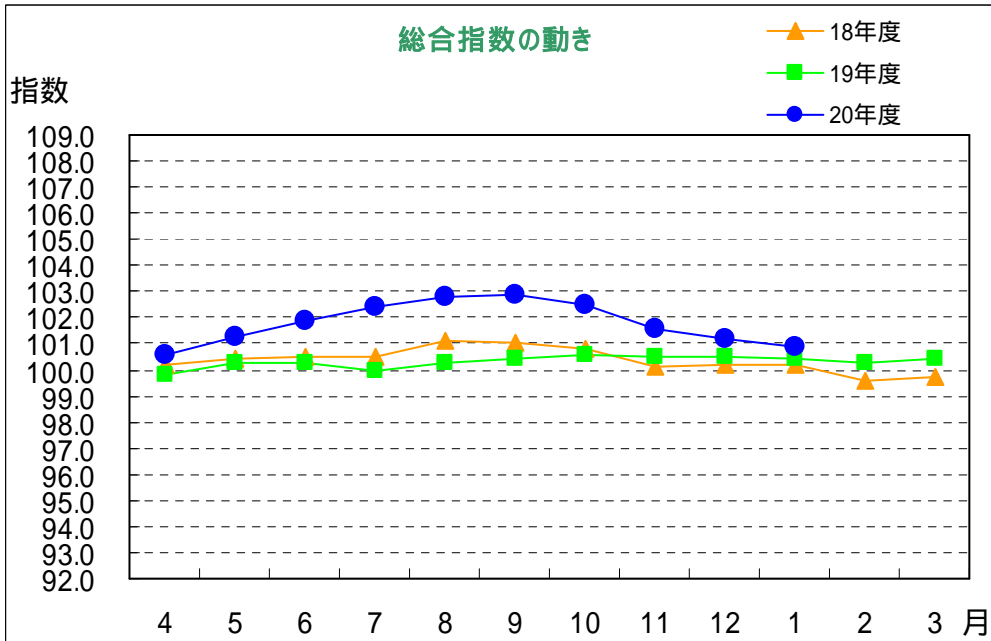
### 下落した中分類指数等の主な項目(寄与度順)

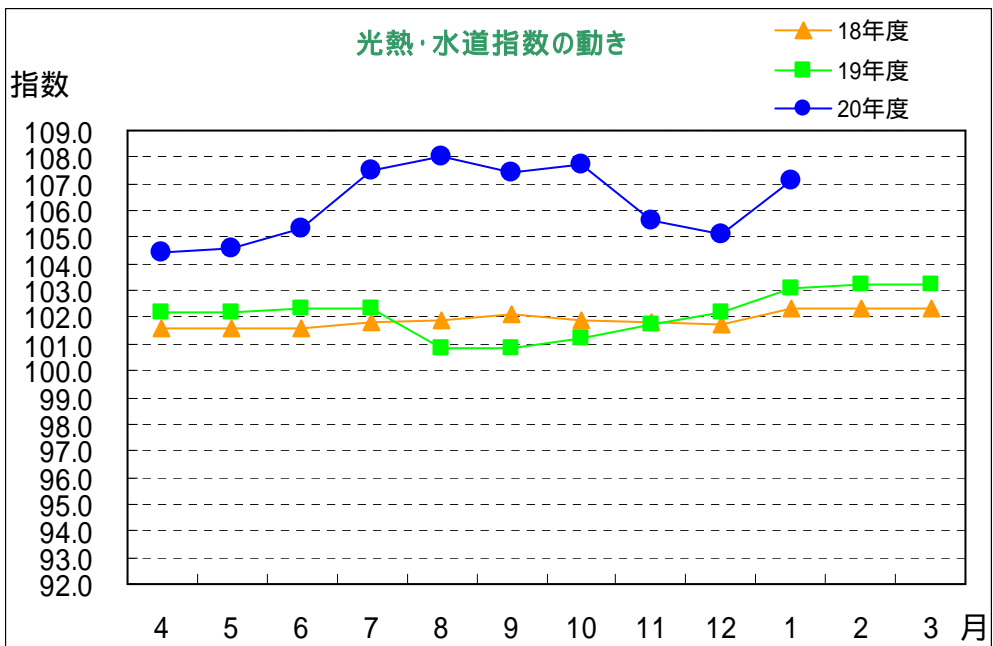
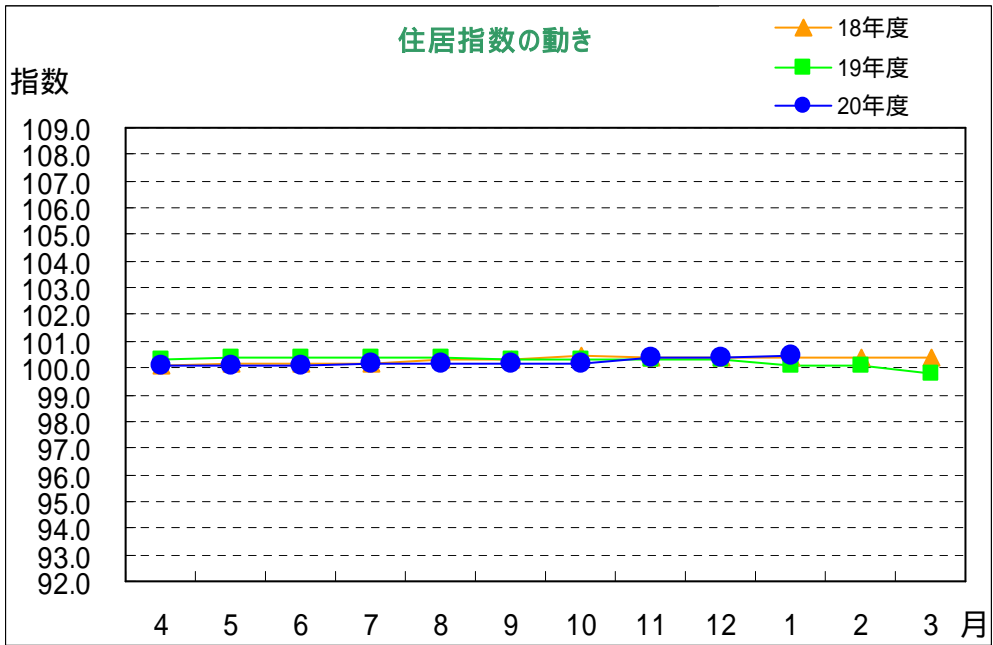
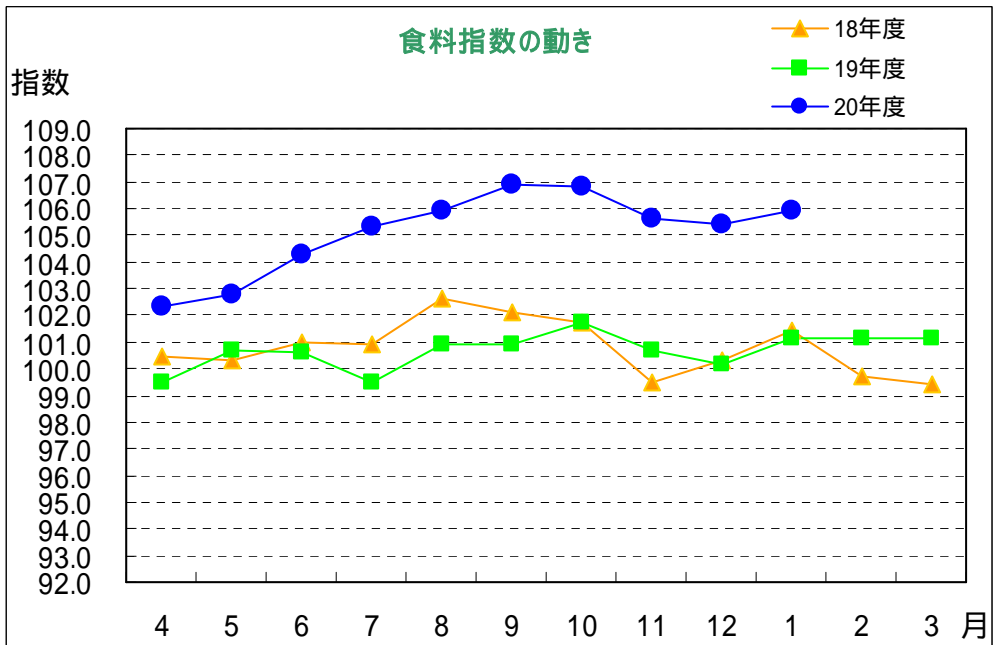
自動車等関係費[交通・通信]	(-)	9.9%
教養娯楽用耐久財[教養娯楽]	(-)	25.2%
他の光熱[光熱・水道]	(-)	24.4%
菓子類[食料]	(-)	4.6%
洋服[被服および履物]	(-)	3.7%
保健医療用品・器具[保健医療]	(-)	6.4%

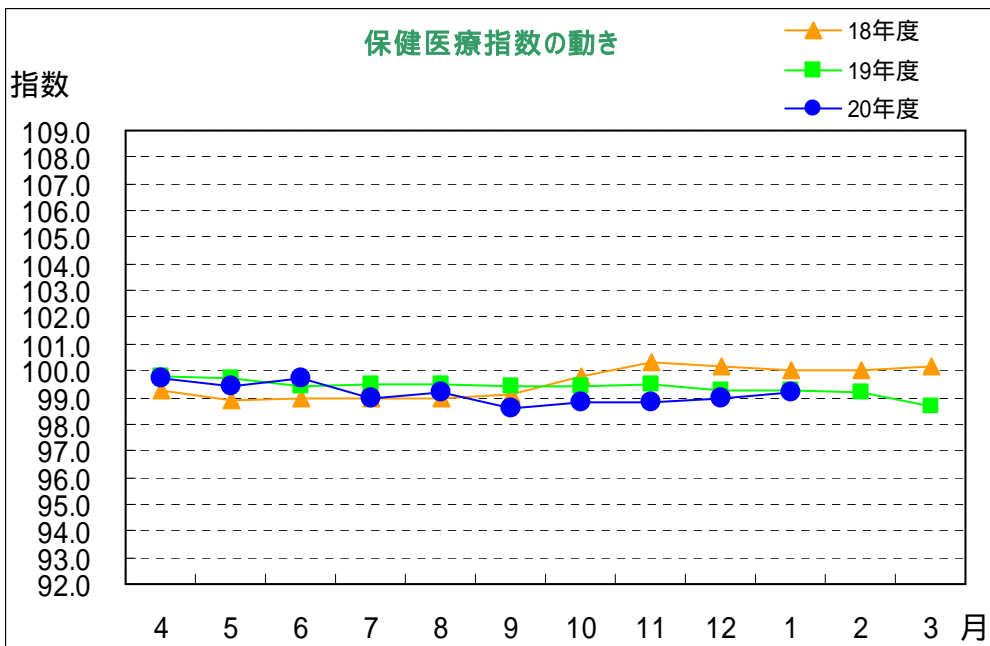
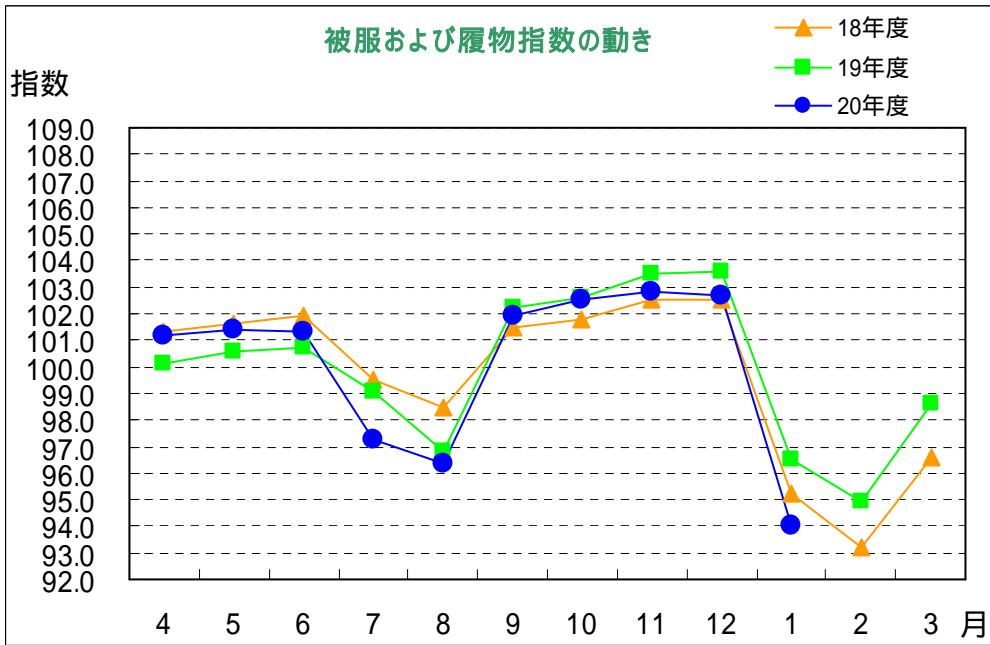
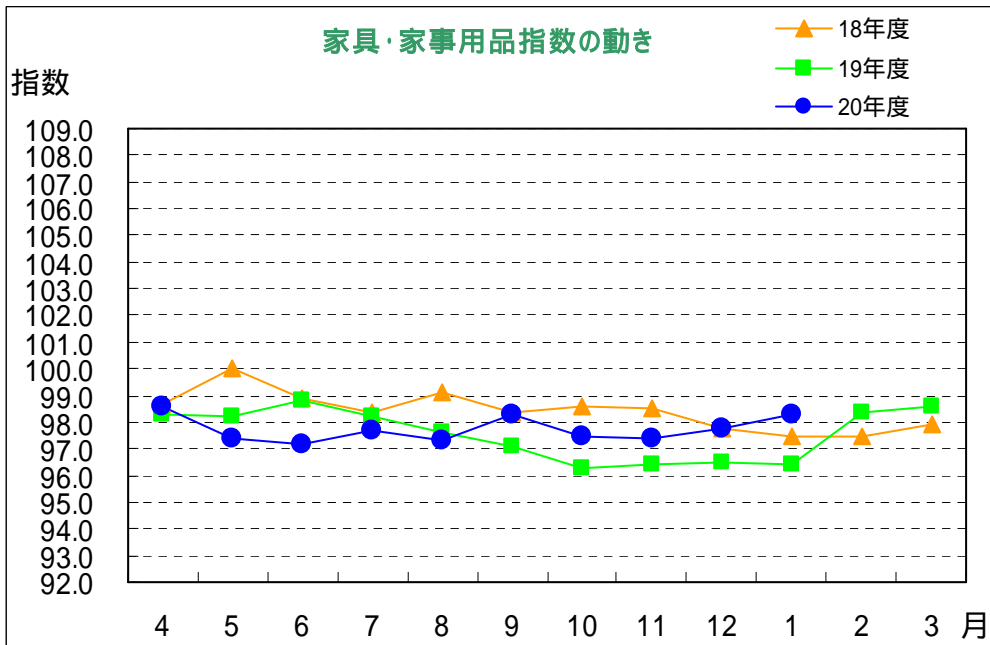
注) 中分類指数の項目のうち、寄与度および各指数の対前年同月比が比較的大きな項目のみを掲載しています。[ ]内は、10大費目名です。

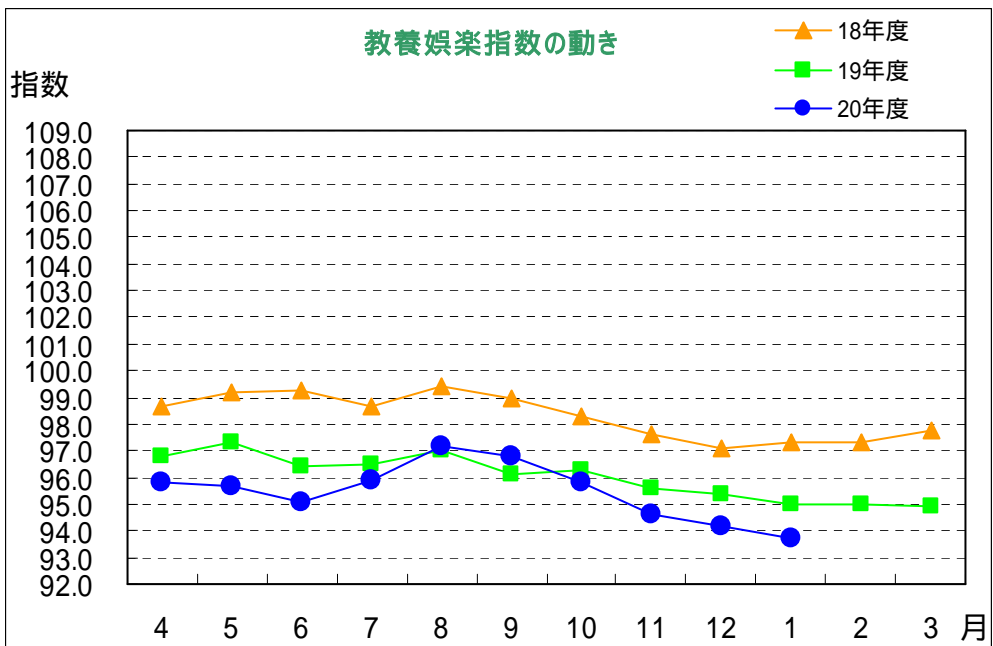
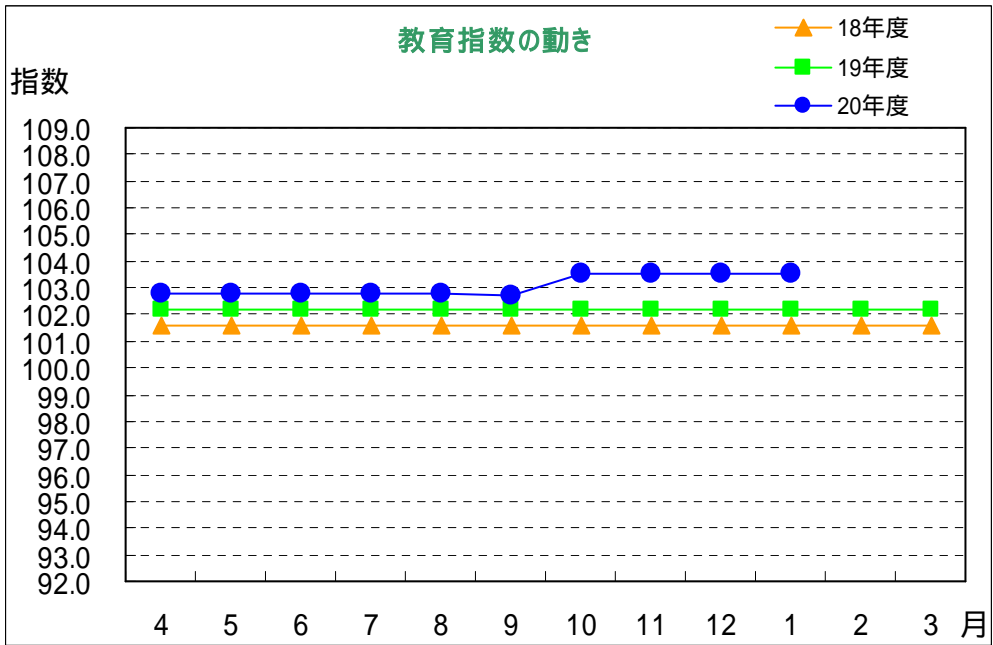
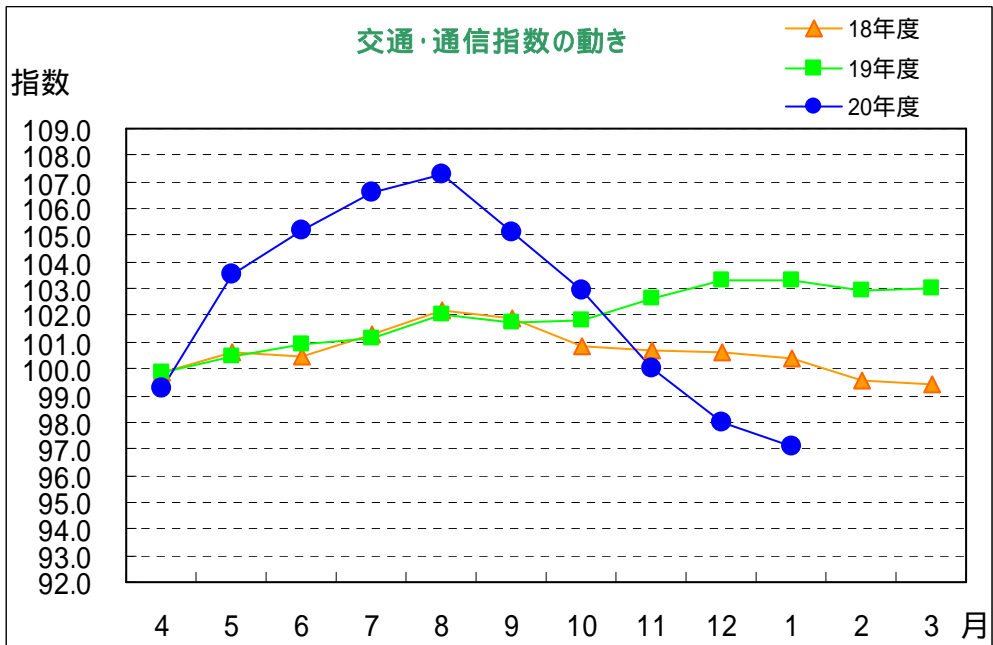
注) 生鮮食品(生鮮魚介、生鮮野菜、生鮮果物)については、小分類指数です。

## 8.10 大費目別の年度比較

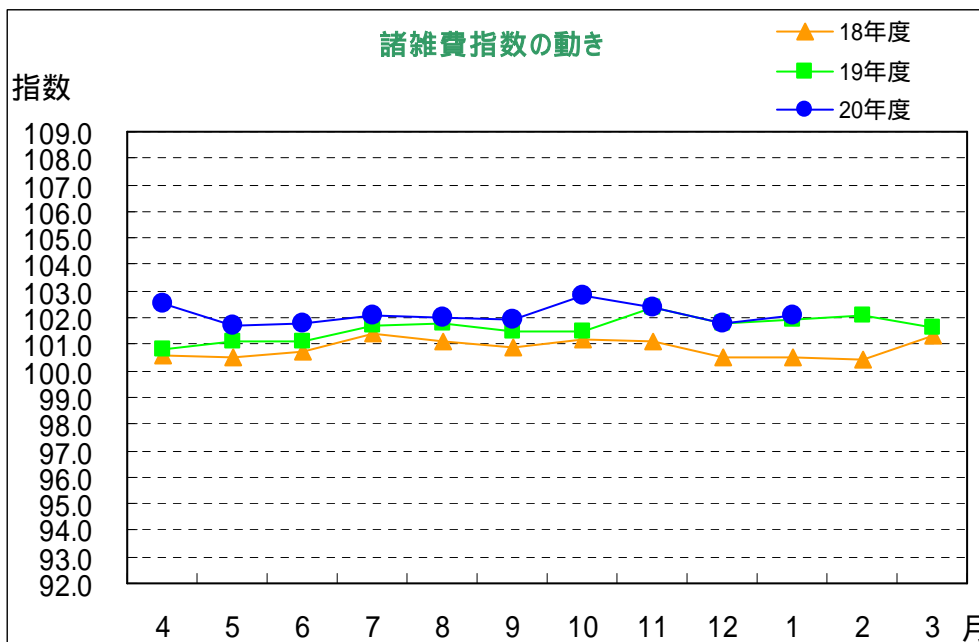












### 【参考】

#### 消費者物価指数とは

消費者物価指数は、日常生活で私たち消費者が購入する各種商品（財やサービス）の価格の動きを総合し、平均的な物価の動きをみるために作られるもので、国民の消費生活にとって最も身近な指数です。日常購入する食料品、衣料品、電気製品、医薬・化粧品などの財の価格のほかに、授業料や家賃、理髪料、バス代などのようなサービスの価格の動きも含まれます。

#### 10大費目とは

指数計算に採用する品目は、世帯が購入する多数の財・サービス全体の物価変動を代表できるように、家計の消費支出の中で重要度が高いこと、価格変動の面で代表性があること、さらに、継続調査が可能であること等の観点から選定された581品目に、持家の帰属家賃4品目を加えた585品目です。これらを大分類したものが10大費目です。